

令和4年度 第61回

農林水産祭



— 2023.4 —

公益財団法人 日本農林漁業振興会

第61回 農林水産祭式典

令和4年度（第61回）農林水産祭式典は、令和4年11月23日（水）に明治神宮会館において、各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者、農林水産祭参加行事において農林水産大臣賞を受賞した優秀農林水産業者等約550名の方々が参加して行われました。

式典は、野村哲郎農林水産大臣の主催者挨拶の後、多角化経営部門天皇杯受賞者の株式会社パストラルの市原幸夫氏が生産者を代表して、明治神宮総代の深尾精一氏が消費者を代表して、それぞれ収穫感謝の言葉を述べられ、次いで選賞審査報告と表彰状等の授与、ご来賓の紹介、祝電の披露等が行われ、最後に日本農林漁業振興会の中家徹理事長の閉会の挨拶により閉幕しました。

農林水産大臣挨拶（要旨）

農林水産祭式典を挙げるに当たり、主催者を代表して、一言、ご挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい折、多くの皆様方に御出席を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るため、昭和三十七年から国民的な祭典として実施しており、今年で六十一回目となります。

この間、農林水産祭を支えていただいている関係者の皆様に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

本日、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞を受賞される皆様に対し、心からお慶び申し上げます。

我が国の農林水産業は、国内市場の縮小や生産者の減少・高齢化などの課題に直面しているほか、ロシアのウクライナ侵略などによる食糧安全保障上のリスクの高まりや気候変動等の問題にも適切に対応することが求められています。

私は、今まさに、国内の生産基盤を維持・強化し、将来にわたって食料を安定的に供給していくためのターニングポイントを迎えていると考えています。

こうした中で、国内の生産基盤を強化するとともに、活力ある農山漁村を次世代に継承していく取組が一層重要になっています。

天皇杯等三賞の受賞者をはじめ、全国の農林水産大臣賞の受賞者の取組は、先進的な技術を導入するとともに、多くの方が働きやすい環境づくりや女性の経営参画にも積極的に取り組んでおられ、地域の農林水産業、農山漁村の発展に大きく貢献してこられました。

皆様方におかれましては、本日を契機に後進の方々の模範となってさらに御活躍いただくことを御期待申し上げます。

結びに、本日御出席の皆様方並びに全国の農林水産業に携わる方々の今後ますますの御発展と御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

令和四年十一月二十三日



野村 哲郎 農林水産大臣

《収穫感謝の言葉》



生産者代表
多角化経営部門天皇杯受賞
株式会社パストラル 市原 幸夫氏



消費者代表
明治神宮総代
深尾 精一氏

農林水産大臣 野村 哲郎

選賞審査報告

審査報告を申し上げます。

農林水産祭中央審査委員会では、昨年7月から本年6月までの1年間に、全国各地で開催されました230の農林水産祭参加表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞されました392点を対象として、書類審査および現地調査を行いました。その結果、7部門において、それぞれ天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の三賞の受賞者を決定いたしました。

また、「女性の活躍」について、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の二賞を選考いたしました。

受賞者の方々の業績のうち、私からは、天皇杯受賞者の方々について、特筆すべき点をご報告申し上げます。

農産・蚕糸部門の福島県の有限会社高ライスセンターは、稲、麦、大豆の2年3作ブロックローテーションと不耕起直播栽培の組合せにより効率的な大規模経営を行っており、ドローンや自動操舵システムなどスマート農業技術の積極的な導入などで、作業の効率化と従業員の通年雇用や長期休暇の確保を実現しています。また、東日本大震災直後の近隣農地の草刈り作業の受託による従業員の給与確保や乾麺うどんの販売回復の取組も特筆されます。

園芸部門の滋賀県の有限会社花匠は、施設でコショウランを大規模に生産しています。台湾で育苗した大苗を輸入して日本で育成するリレー栽培体系の確立や、全自動環境制御設備の導入と気候変動等に対応した制御プログラムの開発により、株の廃棄率を大幅に低減し、高品質周年栽培と高収益を可能としました。また、研修の受入や女性の要望に応じた柔軟な雇用などを通じて、地域社会に貢献しています。

畜産部門の熊本県の株式会社アドバンスは、大規模自給飼料活用型TMR（完全混合飼料）センターとして、飼料用トウモロコシの生産、サイレージの調製、発酵TMRの製造・供給を行うとともに、地域の技術水準の向上にむけた酪農家の巡回指導と継続的なTMRの改良により、高水準の乳量の実現に貢献しています。また、乳牛の預託育成牧場を併設し、飼料の生産・供給と合わせて酪農家の労力軽減を図るとともに、黒毛和種受精卵を預託牛に移植して肥育素牛の供給を行うことで和牛の振興にも貢献しており、畜産業の発展の基盤である飼料生産の分野で全国の先導的な事例となっています。

林産部門の静岡県の渡邊定元さんは、農林水産省職員、東京大学教授を経て、株式会社白糸植物園を設立、平成6年から現在まで28年間、自身の研究成果を活かした林業に従事してきました。高い資産価値を持つ経営林を造成するための間伐方法の実施と、大型機械の走行が可能な幹線作業道の整備などで、生産性の高い作業システムを構築しています。また、森林所有者と約1千haの森林経営受託契約を締結し、持続的経営林づくりを実施、間伐利益を還元するなど、地域の林業経営に貢献しています。

水産部門の北海道の株式会社井原水産は、国内の数の子製造のトップメーカーとしての歴史を有しており、河川を通じて海への鉄分等の供給を目指す植林などCSR活動にも取り組んでいます。受賞財は、正月のおせち商品として固定観念の強い「数の子」を日常でも食べられる手軽な食品にするというコンセプトのもとチーズと燻製「数の子」の組み合わせにより開発されたものです。水産物の消費拡大への貢献とともに、環境に配慮した包装材を使用するなど、同社の環境や社会に貢献する様々な取組は、他の企業の模範となるものです。

多角化経営部門の熊本県の株式会社パストラルは、中山間地域の規格外農産物を利用した「産地アイス」の製造販売を行うなかで、人口減少といった地域課題を解決していくため、合鴨農法による水稲作での農業への参入、高齢化で継続困難であった「あんぼ柿」の加工事業の継承、栗のペースト加工と自社洋菓子店でのモンブラン等の製造販売、地元の酒蔵や製茶工場等と連携したチョコレート製品等の開発など、地域を活性化させる多様な事業を展開しています。

むらづくり部門の長野県の稲倉の棚田保全委員会は、「日本の棚田百選」の認定を契機に組織化されました。棚田米の販売、棚田オーナー制度や地元酒造会社と連携した「酒米オーナー」、気軽に保全活動に参加できる「棚田ファン」などを通じて、会員を増加させてきました。また、農閑期の棚田キャンプ、子供達に田んぼで遊んでもらうイベント、首都圏や地元の小学生の生物多様性授業の実施等、都市農村交流の拠点となっており、我が国における「むらづくり」のモデル事例となり得るものです。

内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞につきましても、「女性の活躍」による受賞を含め、それぞれ素晴らしい皆様方が受賞されました。

本日、受賞されました方々に心からお祝いを申し上げますとともに、こうした方々の先進的な取組が全国に普及し、日本の農林水産業がさらに活性化することを祈念致しまして、審査報告といたします。



中央審査委員会
会長 伊藤 房雄 氏

天皇杯等三賞の表彰

天皇杯は、7部門の受賞者に対し野村哲郎農林水産大臣から賞状が、林良博（公財）日本農林漁業振興会会長から天皇杯が授与されました。引き続き、内閣総理大臣賞は、野村大臣から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与され、日本農林漁業振興会会長賞は、林会長から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与されました。



天皇杯受賞者



天皇杯授与の様子



内閣総理大臣賞受賞者



日本農林漁業振興会会長賞受賞者

祝辞、祝電等

天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の授与後に、内閣総理大臣岸田文雄様からのメッセージと衆議院議長細田博之様、参議院議長尾辻秀久様からのご祝電の披露がありました。また、多数の祝電のご紹介をいたしました。

大臣と三賞受賞者等との懇談会

式典終了後、農林水産大臣等と三賞受賞者の皆様との懇談会が行われました。

懇談会では、まず、三賞受賞者を代表して各部門の天皇杯受賞者から受賞のお礼や今後の抱負等についてお話があり、その後、野村大臣、野中厚副大臣、角田秀穂大臣政務官、横山紳事務次官から受賞者に対してご挨拶を頂きました。



懇談会の様子

天皇杯等三賞の選賞

令和4年度の天皇杯等三賞（天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞）の選賞審査は、7月1日（金）に開催された農林水産祭中央審査委員会第1回総会を皮切りに、経営（兼多角化経営）、農産・畜産、園芸、畜産、林産、水産、むらづくりの各分科会において行われました。令和3年7月から令和4年6月にかけて全国で開催された230の農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞された優秀農林水産業者392人（団体、夫婦連名を含む）を対象に、部門毎に書類審査と現地調査による厳正な審査が行われ、10月4日の中央審査委員会第2回総会において決定されるとともに、同5日農林水産省Webサイトで公表されました。



農林水産祭中央審査委員会第2回総会

天皇杯等三賞選賞の結果

	部 門	出 品 財	受 賞 者		表彰行事
			住 所	氏 名 等	
天皇杯	農産・畜産	経営 (水稲、小麦、大豆)	福島県南相馬市	有限会社高ライスセンター (代表 佐々木 教喜)	第62回福島県農業賞
	園 芸	経営 (コチョウラン)	滋賀県東近江市	有限会社花匠 (代表 川口 正)	令和3年度全国優良経営体表彰
	畜 産	技術・ほ場 (飼料生産部門)	熊本県菊池市	株式会社アドバンス (代表 永田 浩徳)	第8回全国自給飼料生産コンクール
	林 産	経営 (林業経営)	静岡県富士宮市	渡邊 定元	全国林業経営推奨行事
	水 産	産 物 (水産加工品)	北海道留萌市	井原水産株式会社 (代表 井原 慶児)	第32回全国水産加工品総合品質審査会
	多角化経営	経営 (水稲、栗ほか)	熊本県山鹿市	株式会社バストラル (代表 市原 幸夫)	第51回日本農業賞
	むらづくり	むらづくり活動	長野県上田市	稲倉の棚田保全委員会 (代表 久保田 良和)	第44回豊かなむらづくり全国表彰事業
内閣総理大臣賞	農産・畜産	産 物 (深蒸し煎茶)	静岡県掛川市	農事組合法人山東茶業組合 (代表 伊藤 智章)	第48回関東ブロック茶の共進会
	園 芸	経営 (万願寺甘とう)	京都府綾部市	JA 京都にのくに 万願寺甘とう部会協議会 (代表 添田 潤)	第51回日本農業賞
	畜 産	経営 (養豚)	岐阜県高山市	吉野 毅* 吉野 聡子*	第51回日本農業賞
	林 産	技術・ほ場 (苗ほ)	宮崎県宮崎市	長倉 良守	令和3年度全国山林苗畑品評会
	水 産	技術・ほ場 (資源管理・資源増殖)	福岡県北九州市	豊前海北部漁業協同組合恒見支所青壮年部 (代表 江口 一弘)	第27回全国青年・女性漁業者交流大会
	多角化経営	経営 (メロン、イチゴ、甘藷ほか)	茨城県鉾田市	農業法人深作農園有限会社 (代表 深作 勝己)	第51回日本農業賞
	むらづくり	むらづくり活動	京都府南丹市	下集落支援事業委員会 (代表 大下 裕宣)	第44回豊かなむらづくり全国表彰事業
	畜産	女性の活躍	熊本県菊池郡 大津町	セブンフーズ株式会社 (代表 前田 佳良子)	令和3年度全国優良経営体表彰
日本農林漁業振興会会長賞	畜産	経営 (麦類)	兵庫県たつの市	株式会社グリーンファーム揖西 (代表 猪澤 敏一)	令和3年度全国麦作共助会
	園 芸	経営 (ぶどう)	岡山県倉敷市	JA 晴れの国岡山船穂町ぶどう部会 (代表 浅野 三門)	第51回日本農業賞
	畜 産	経営 (採卵鶏)	岡山県笠岡市	有限会社たかた採卵 (代表 高田 安紀彦)	第61回岡山県農林漁業近代化表彰
	林 産	女性の活躍	熊本県阿蘇郡 南小国町	穴井 里奈	令和3年度農山漁村女性活躍表彰
	水 産	産 物 (水産加工品)	長崎県大村市	長崎海産株式会社 (代表 三宅 ちはる)	第59回長崎県水産加工振興祭水産製品品評会
	多角化経営	経営 (肉豚)	鹿児島県鹿屋市	有限会社ふくどめ小牧場 (代表 福留 俊明)	令和3年度全国優良経営体表彰
	むらづくり	むらづくり活動	新潟県小千谷市	株式会社Mt.ファームわかとち (代表 細金 剛)	第44回豊かなむらづくり全国表彰事業
	林産	女性の活躍	熊本県阿蘇郡 南小国町	穴井 里奈	令和3年度農山漁村女性活躍表彰

(注1) 氏名等欄の*は、夫婦連名での受賞である。

優秀農林水産業者に係るシンポジウム

農林水産祭の一環として、天皇杯等三賞受賞者の業績を広く普及することを目的として、東京都内及び地方において、シンポジウムを開催しました。

都 内 開 催

【テーマ：東日本大震災からの復興と6次産業化の取組】（第30回）



佐々木 均氏

令和4年7月6日（水）に東京都港区の石垣記念ホール（三会堂ビル）において、令和3年度農産・畜産部門で天皇杯を受賞された「農事組合法人仙台イーストカントリー」の業績を取り上げて、シンポジウムを開催しました。

農林水産省大臣官房の川合豊彦技術総括審議官のご挨拶のあと、農林水産祭中央審査委員会農産・畜産分科会の中谷誠主査による選賞審査報告、仙台イーストカントリーの佐々木均氏による業績発表があり、引き続き、中谷主査の進行により、右記のパネリストによる意見交換や参加者との質疑応答が行われました。シンポジウムは、行政関係者、農林関係団体、関連企業等など約60名の参加の下、実施されました。（このほか、Web配信では約40名が視聴。）



パネルディスカッションの様子

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」出席者

R4.7.6（敬称略）

区 分	氏 名	所 属・職 名 等
業績発表者	佐々木 均	令和3年農林水産祭農産・畜産部門天皇杯受賞者農事組合法人 仙台イーストカントリー代表理事
コーディネーター及び選賞審査報告	中谷 誠	農林水産祭中央審査委員会農産・畜産分科会主査（農産・食品産業技術総合研究機構副理事長）
コメンテーター	山岸 順子	農林水産祭中央審査委員会農産・畜産分科会委員（元東京大学大学院教授）
コメンテーター	森田 明	公立大学法人宮城大学食産業学群教授
コメンテーター	菊地 敬子	宮城県仙台農業改良普及センター技術主査
挨拶	川合 豊彦	農林水産省大臣官房技術総括審議官
司会・進行	小栗 邦夫	（公財）日本農林漁業振興会常務理事

地 方 開 催

【テーマ：6次産業化で地域の課題解決と活性化を実現】（第31回）



山口 成美氏

令和4年8月30日（火）に長崎市のサンプリエール長崎において、令和3年度に多角経営部門で天皇杯を受賞した有限会社シュシュの業績を取り上げてシンポジウムを開催しました。

九州農政局の池山靖浩地方参事官と長崎県の綾香直芳農林部長のご挨拶のあと、農林水産祭中央委員会の伊藤房雄会長による選賞審査報告、（有）シュシュの山口成美社長による業績発表に引き続き、伊藤会長の進行により、コメンテーターと業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答などが行われました。

シンポジウムには、50名を超える方にご参加頂きました。（このほか、Web配信で約40名にご視聴いただきました。）



パネルディスカッションの様子

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」出席者

R4.8.30（敬称略）

区 分	氏 名	所 属・職 名 等
業績発表者	山口 成美	令和3年農林水産祭多角化経営部門天皇杯受賞者有限会社 シュシュ 代表取締役
コーディネーター及び選賞審査報告	伊藤 房雄	農林水産祭中央審査委員会会長（東北大学大学院教授）
コメンテーター	澁谷 美紀	農林水産祭中央審査委員会経営分科会委員（農研機構・北海道農業研究センター研究推進部長）
コメンテーター	伊藤 秀雄	有限会社伊豆沼農産代表取締役会長
コメンテーター	岩間 智子	長崎県農山村振興課課長補佐
挨拶	池山 靖浩	農林水産省九州農政局地方参事官（長崎県拠点）
	綾香 直芳	長崎県農林部長
司会・進行	小栗 邦夫	（公財）日本農林漁業振興会常務理事

地 方 開 催

【テーマ：地域畜産業の基盤となる大規模自給飼料生産・活用型 TMR センター】（第 32 回）



永田 浩徳 氏

令和 5 年 2 月 21 日（火）に熊本市のメルパルク熊本において、令和 4 年度畜産部門で天皇杯を受賞された株式会社アドバンスの業績に関するシンポジウムを開催しました。

農林水産省の秋葉一彦大臣官房政策課政策情報分析官と熊本県竹内信義農林水産部長のご挨拶のあと、中央審査委員会畜産分科会の栗原光規主査による選賞審査報告、

（株）アドバンスの永田浩徳代表取締役による業績発表に引き続き、栗原主査の進行により、コメンテーターと業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答などが行われました。

シンポジウムには、畜産関係者、行政関係者など、約 50 名の皆様にご参加いただきました。（このほか、Web 配信では、約 70 名にご視聴頂きました。）



パネルディスカッションの様子

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」出席者

R5.2.21（敬称略）

区 分	氏 名	所 属・職 名 等
業績発表者	永田 浩徳	令和 4 年農林水産祭畜産部門天皇杯受賞者 株式会社 アドバンス代表取締役
コーディネーター 及び選賞審査報告	栗原 光規	農林水産祭中央審査委員会畜産分科会主査 （農研機構・企画戦略本部研究統括部 スマート農業事業推進室長）
コメンテーター	小泉 聖一	農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員 （日本大学生物資源科学部特任教授）
コメンテーター	大下 友子	農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター 事業推進部戦略的研究開発課研究リーダー
コメンテーター	廣瀬 大造	熊本県県北広域本部農林水産部農業普及・振興課主幹
挨 拶	秋葉 一彦	農林水産省大臣官房政策課政策情報分析官
	竹内 信義	熊本県農林水産部長
司会・進行	小栗 邦夫	（公財）日本農林漁業振興会 常務理事

【テーマ：美しい棚田 稲倉 ～眺めるだけではない、カカワレルタナダ～】（第 33 回）

左 久保田良和 氏
右 玉崎 修平 氏

令和 5 年 3 月 6 日（月）に長野県上田市の上田高砂殿において、令和 4 年度むらづくり部門で天皇杯を受賞された稲倉の棚田保全委員会の業績に関する地方シンポジウムを開催しました。

関東農政局の信夫隆生局長、長野県上田地域振興局の柳沢由里局長、上田市の土屋陽一市長のご挨拶のあと、中央審査委員会むらづくり分科会の福与徳文主査の選賞審査報告、

稲倉の棚田保全委員会の久保田良和委員長と玉崎修平事務局次長による業績発表が行われ、引き続き、福与主査の進行により、コメンテーター、業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答が行われました。

シンポジウムには、90 名を超える皆様にご参加頂きました。（このほか、Web 配信では 50 名を超える皆様にご視聴頂きました。）



パネルディスカッションの様子

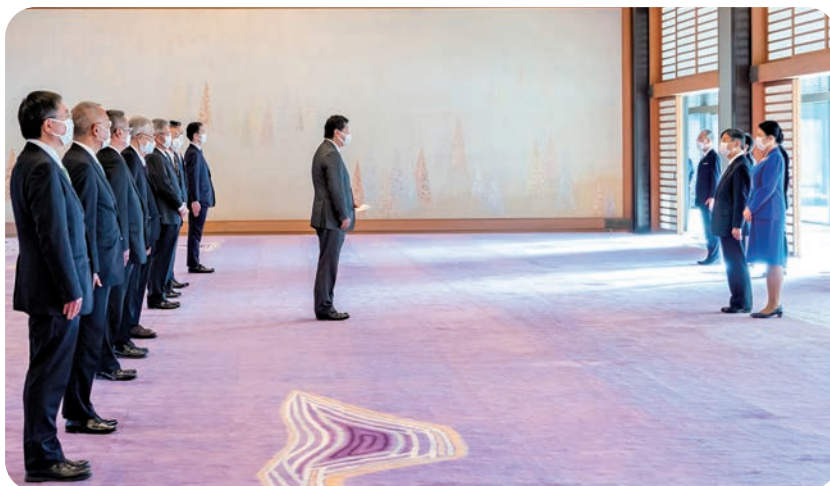
「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」出席者

R5.3.6（敬称略）

区 分	氏 名	所 属・職 名 等
業績発表者	久保田良和	令和 4 年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞 稲倉の棚田保全委員会委員長
	玉崎 修平	令和 4 年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞 稲倉の棚田保全委員会事務局次長
コーディネーター 及び選賞審査報告	福与 徳文	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査 （茨城大学農学部教授）
コメンテーター	畠山 智之	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会委員 （NHK 放送研修センター 日本語センター エグゼクティブアナウンサー）
コメンテーター	内川 義行	信州大学農学部准教授
コメンテーター	土屋 陽一	上田市長
挨 拶	信夫 隆生	農林水産省関東農政局長
	柳沢 由里	長野県上田地域振興局長
	土屋 陽一	上田市長
司会・進行	小栗 邦夫	（公財）日本農林漁業振興会 常務理事

天皇皇后両陛下への拝謁と業績説明

令和4年度の農林水産祭参加表彰行事において、7部門それぞれで最も優秀な農林水産業者として選定され、最高の栄誉に輝いた天皇杯受賞者は、令和5年3月3日（金）皇居宮殿春秋の間において天皇皇后両陛下に拝謁し、受賞者の代表から天皇杯受賞に対するお礼言上を行い、天皇陛下から励ましのお言葉をいただきました。



天皇皇后両陛下への天皇杯受賞者のお礼言上

天皇皇后両陛下への業績説明

拝謁に引き続き、伊藤中央審査委員会会長及び川合技術総括審議官のご先導により、両陛下は、畜産部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門、農産・蚕糸部門、園芸部門の順に、受賞者からそれぞれの業績について説明を受けられました。

各天皇杯受賞者のご説明に対して、両陛下から、展示物に関する技術や経営、生産状況等について多岐にわたるご下問があり、短い時間の中でそれぞれ温かい励ましのお言葉をいただきました。



畜産部門の業績説明



林産部門の業績説明

天皇杯受賞者の皇居特別参観・記念撮影

拝謁・業績説明に先立ち、宮内庁担当者の案内により、皇居特別参観が行われ、宮殿と回廊に囲まれた中庭、二重橋、賢所、生物学研究所（水田）、紅葉山御養蚕所等を参観しました。また、皇居宮殿東庭松の塔前において、天皇杯受賞者を囲んで記念撮影が行われました。



天皇杯受賞者を囲んで記念撮影

皇居特別参観（令和2年度、3年度天皇杯受賞者）

令和2年度、令和3年度の天皇杯受賞者の拝謁並びに業績説明については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止となりましたが、宮内庁のご配慮により令和4年7月8日（金）に皇居特別参観が行われました。

宮内庁担当官のご案内により、宮殿と回廊に囲まれた中庭、二重橋、賢所、生物学研究所（水田）を参観しました。また、皇居宮殿東庭の松の塔前において、天皇杯受賞者を囲んで記念撮影が行われました。



令和2年度受賞者



令和3年度受賞者

令和4年度（第61回）農林水産祭「実りのフェスティバル」

「実りのフェスティバル」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため2カ年中止となりましたが、本年度は3年ぶりに令和4年11月11日（金）、12日（土）の2日間、東京都豊島区の池袋サンシャインシティにおいて開催いたしました。初日の開場に先立ち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご来場され、勝俣孝明農林水産副大臣をはじめとする関係者や各地のご当地キャラ、キャンペーンスタッフ等がお出迎えしました。

令和4年度の7部門の天皇杯受賞者の業績を紹介するコーナーでは、写真パネルをご覧いただきながら、農林水産省の川合技術総括審議官から両殿下へ天皇杯受賞者の業績のご説明が行われ、引き続き、勝俣副大臣、川合審議官、中家日本農林漁業振興会理事長ほかのご案内により、政府（農林水産省）特別展示コーナー、地域農林水産展（都道府県）コーナー、農林関係団体コーナーをご視察いただきました。

初日、2日目とも穏やかな天候に恵まれたことなどから、2日間で約15,000人の皆様にご来場いただきました。



天皇杯コーナーご視察



天皇杯パネル



お出迎え

政府（農林水産省）特別展示コーナー



農業遺産を応援しよう！



「農業」と「福祉」が繋がって日本を元気に！



お米の魅力に迫る！



意外と知らない食品の表示・認証制度

内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞の紹介

令和4年度農林水産祭内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の受賞者をパネルで展示紹介しました。



内閣総理大臣賞パネル



日本農林漁業振興会会長賞パネル

東日本大震災被災地復興支援コーナー

東日本大震災からの被災地の一日も早い復旧・復興を願い、会場内に被災地の農林水産物の展示、販売等を行うため、「東日本大震災被災地復興支援コーナー」を設置し、展示をしました。



(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会

都道府県技術・経営普及展コーナー

都道府県の独自性を有する農業技術や特徴ある農林水産物について、13道県の出展により実物、パネル等で展示紹介しました。



地域農林水産展（都道府県コーナー）

全国各地の農林水産物の試食・試飲、販売が行われ、大勢の来場者で賑わいました。出展された30道県のうち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下には、青森県、山形県、栃木県、埼玉県、長野県、富山県、岐阜県、徳島県、佐賀県、宮崎県の10県の担当部長等から出展产品のご説明を行いました。



ご視察：岐阜県

地域農林水産展（都道府県コーナー）

■ ご視察該当県



青森県



山形県



新潟県



埼玉県



長野県



富山県



徳島県



佐賀県



宮崎県

■ ご視察該当以外の出展道県



北海道



岩手県



秋田県



福島県



千葉県



山梨県



静岡県



新潟県



石川県



福井県



愛知県



三重県



和歌山県



山口県



香川県



福岡県



長崎県



熊本県



大分県



鹿児島県

会場風景



農林水産関係団体コーナー

秋篠宮同妃両殿下は、農林水産関係団体コーナー 10 団体のうち、「(独) 農畜産業振興機構」並びに「(一社) 全国農業協同組合中央会 (JA 広場)」をご視察されました。

また、来場者が参加できる体験コーナーやクイズ、試食・試飲が楽しめるコーナーなど各種の展示が行われ、賑わいました。



(独) 農畜産業振興機構



(一社) 全国農業協同組合中央会

■ ご視察該当以外の出展団体



全国い生産団体連合会



全国食肉生活衛生同業組合連合会



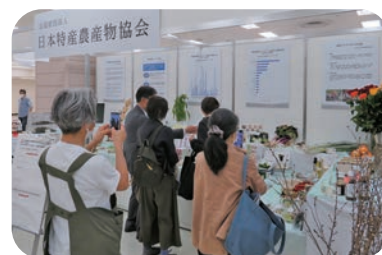
(公財) 中央果実協会



(一社) 日本鯉節協会



(一社) 日本畜産副産物協会



(公財) 日本特産農産物協会



(一社) 日本パインアップル缶詰協会



(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会

体験、ふれあい



キャンペーンガールの皆さん



体験乗馬

ゆるキャラ



農林水産物の贈呈

◆贈呈ご協力道県・団体◆

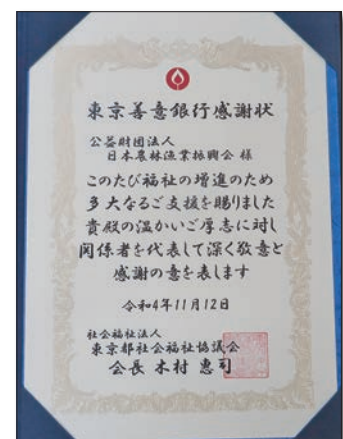
農林水産祭を祝い、実りの喜びを分かち合うとの趣旨で、7道県・2団体から提供された物品はフェスティバル終了後、東京善意銀行を通じて、福祉施設に贈呈されました。

これに対し、社会福祉法人東京都社会福祉協議会から令和4年11月12日付けで（公財）日本農林漁業振興会に対して感謝状が贈られました。これは、ひとえに農林水産物をご提供いただいた皆様のご協力によるものであり、深く感謝申し上げます。



全国花みどり協会ご提供の鉢花

北海道（ＪＡグループ北海道（ＪＡ北海道中央会・ＪＡ北海道信連・ホクレン・ＪＡ北海道厚生連・ＪＡ共済連北海道）、秋田県（ＪＡ全農秋田県本部）、山形県、山梨県（ＪＡグループ山梨、山梨県農畜産物販売強化対策協議会）長野県（おいしい信州フードキャンペーン推進委員会）、静岡県（静岡県温室農業協同組合、静岡県椎茸産業振興協議会）、大分県（ＪＡ全農大分県本部、大分県椎茸振興協議会、豊後別府湾ちりめん協議会）、ＪＡ全中、全国花みどり協会（日本花き生産協会、日本花き卸売市場協会、全国花卸協会、日本生花商協会、日本インドア・グリーン協会、ＪＦＴＤ、日本いけばな芸術協会、花の国日本協議会）（順不同）



農林水産祭事業の概要

目的は

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と(公財)日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施しています。

事業は

優秀農林水産業者に対して下賜された天皇杯等の授与と収穫を感謝する「農林水産祭式典」(例年11月23日に開催)と優秀農林水産業者の技術・経営の紹介、農林水産物の展示・即売等を中心とする「実りのフェスティバル」の2本柱で行われています。

実施体制は

農林水産祭を推進するための農林水産祭実行委員会、農林水産大臣賞の受賞者の中から特に優秀なものを天皇杯等三賞受賞者として選定する農林水産祭中央審査委員会等、多くの関係者の協力の下で実施しています。

財源は

国の補助金のほか、都道府県の負担金、農林水産関係団体の寄付金、経団連関係団体・企業の寄付金等、多くの皆様のご協力をいただいています。

天皇杯と農林水産祭

1. 天皇杯は、スポーツ及び農林水産業の振興のため、特に業績のあった最優秀者に対して授与されるものであり、現在、30個の天皇杯が宮内庁を通じて所管団体に下賜されています。
2. 昭和37年11月、財団法人日本農林漁業振興会が農林省と共催する農業祭参加表彰行事において、部門別の最優秀者(農産、園芸、畜産、蚕糸、林産、水産)として選ばれた者に対して授与するものとして、6個の天皇杯が宮内庁を通じて、財団法人日本農林漁業振興会に下賜されました。



その後、昭和54年度から、農林水産祭参加表彰行事に新たに加えられたむらづくり部門の特に優秀なものに授与されるものとして、天皇杯が1個下賜されました。

なお、部門名については、現在、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの7部門となっています。

3. 天皇杯は毎年農林水産関係団体等が「農林水産祭参加行事」として開催する約300の表彰行事において農林水産大臣賞(約500点)を受賞した者の中から中央審査委員会の厳正な審査を経て選定されます。

close-up

農林水産祭(通巻 第135号)

発行所 公益財団法人 日本農林漁業振興会

令和5年4月

本誌に掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。
令和5年度の農林水産祭スケジュールにつきましては、
本会ホームページ等でお知らせする予定です。

〒104-0045 東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル4F
TEL 03 (6441) 0791(代) FAX 03 (6441) 0792
URL <http://www.affskk.jp>